網走教組ほんりゅう

第４２５号
網走教職員組合
〒090-0052
北海道北見市北進町4丁目5－31
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
９月２９日

夏の合宿研

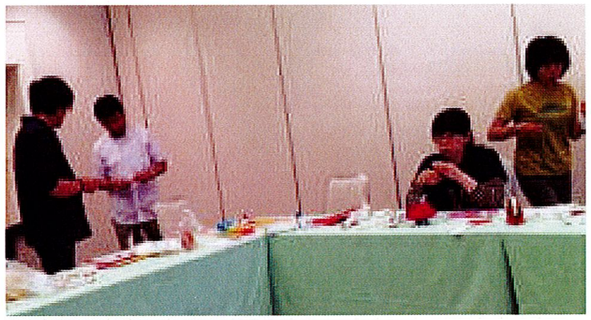
去る、八月二九（土）・三〇日（日）、網走観光ホテルで夏の合宿研が行われました。一日目の参加者は十二名で、教科化され押し付けられる「道徳」を本来の子どもたちを育てる視点でどのように取り組むかを考える学習会と、互いの近況や教育談義に花が咲く夜の交流会のどちらとも楽しい盛り上がりを見せました。二日目は大坪先生の「みんなで作ろう手作り工作」が行われ８名の組合員の参加がありました。とても充実した二日間となりました。

特に、一日目の「『道徳』の授業を通して子どもたちをどう育てるか〜どうなる？どうする？道徳の教科化〜」をテーマにした学習会では、はじめに斉藤正倫先生からＰＣを使って画像による説明がなされました。戦前の「修身」の流れを源流に、復古調の自民党が熱望するかたちで道徳が復活してきて、今や教科化を押しすすめているところまできた経緯などがわかりやすく話されました。

更に、各学校の道徳の現状がレポートなどを通して報告され、副読本を使っての全学級統一した授業は当たり前であったり、参観日で道徳の授業公開を無理強いする管理職の実態があったりと現場での問題点が報告されました。

そこで、それらを踏まえて「道徳の教科化」に対してどのようにしていけば良いのか討議されました。この討議では、「道徳」を進めていくにあたって、「子供たちの内心の自由」をどのように保障するのかという問題が集中的に論議されました。そして、特定の価値観を教え込むことの弊害が語られました。「いろいろな考え方があっていい」という大前提が崩され、いつの間にか，教師の顔色を伺い正答探しに血道を上げる授業になってしまうことの恐ろしさが語られました。自由闊達に論議し、互いの価値観を比較、検討しながらも最終的にはお互いの考えを尊重できることこそ大切であると確認しました。次に、読み物として与えられる道徳の教材に自ずと限界があることの問題性が語られました。作品世界は特定の書き手がテーマを鮮明にするために都合のいい断片を全ての事実の立脚点として描くが故の「決められた狭い枠」が生まれてしまうということです。この枠に生真面目に囚われてしまうと非科学的な心情論や個人の責任に全てを帰す偏狭な規範意識に問題を矮小化してしまうことになり危険だということでした。学習会では教師の優れた専門性をここで発揮することの大切さも語られましたが、若い教師へのサポートが不可欠といった教師集団全体の問題として捉えることの重要性が指摘され、参加者の思いが一層引き締められることになりました。

いよいよ現実的な課題として近づいてきている「道徳の教科化」の問題は、今後ますます教育現場において困難な対応を迫られ、深刻な混乱を広げていくことが予想されます。よって、今回行った学習会で話題になった内容をふまえ、子供たちや保護者にとって本当に必要な内容の道徳とはどのようなものなのかを組合員一人ひとりが考え、更に実践の交流や理論研究を検証の手立てとして互いの認識を深めつつ磨きあい、「私たちの考える、あるべき道徳のあり方」をより確かなものにしていくことが大切だと考えます。



教育全国署名 網走教組スタート集会

９月５日（土）、スタート集会に先立ち、１１時よりコープさっぽろ三輪店前にて街頭署名活動を行いました。道教組からの椙木先生を含め６名が参加し、「３５人以下学級の実現」「教育予算増額」「高校無償化」などを訴えました。途中、雨も降る中でしたが、１時間で６６筆を集めました。

終了後、１３時より、本部にて、３名が加わり、９名の参加で網走教組スタート集会が行われました。**委員長挨拶、椙木先生より情勢の報告、今年度の目標・日程などを確認し、今年度の各支部の取り組みについて話しが出されました。**

椙木先生からは、「安倍総理も『３５人学級の実現に鋭意努力』と答弁せざる終えない状況」ということや「毎年否決されているので、道の誓願項目は否決とならないように、自民党の文教トップにアドバイスをもらっている」などの情勢報告がありました。

網走支部からは、個人的に行うものが例年多いが、高教組との取り組みを１回でも行っていきたいということが話されました。遠軽・紋別支部からは、土曜日ごとに１０時から遠軽シティで高教組と合同でまたは支部単独で行い、参加できる人がやっていくという話しが出されました。北見支部では、高教組との合同のスタート集会は実施済みで、高教組の予定に合わせて都合の付く限り参加していくとのことでした。また、関係する他の組合や企業などにも依頼しながら行っていくということも出されました。

目標の１０００筆に向けて、また、署名に合わせて組織の強化をしていくことも確認してスタート集会は終わりました。

それぞれの組合員の力で目標達成を目指しましょう!!

道教組中央委員会

九月十二日に道教組中央委員会が行われました。委員長挨拶では安保法案反対の動きが全国的に広がり、大きな運動となっているが、学校の現場では管理と統制がより強まり、子どもたちと平和について語り合う時間がもてなくなっているという話がされました。椙木書記長による議案の提案の中でも、安保法案反対の動きについて触れられ、東京・札幌などの大都市だけではなく、地方でも継続して反対の運動があったことが大きなうねりとなった要因ではないかという話がありました(詳細は議案書参照)。

各単組からの発言では、学力テスト体制がどんどん強まってきているという話がありました。上川では学力が矮小化され、点数に一喜一憂する現場の状況があるそうです。渡島では土曜授業がほぼ毎週あり、また、六年生の四月は毎日の授業の中で学力テストの過去問に取り組まなければならないこと、チャレンジテストは一〇〇点になるまで何度もやり直しをさせ、その後に報告をするという実態が話されました。

また、安保法案反対の取り組みについてたくさんの発言がありました。街頭宣伝や署名、集会・・・たくさんの参加者があり、各地での運動の盛り上がりが話されました。

今回のまとめとして、教育現場に広がる学力テスト体制、道徳の教科化、生徒指導という名のゼロトレランスを実践を通して乗り越えていくことが大切だという話になりました。日頃から網走教組が大切にしている毎日の授業、子どもとの関わり、職場づくりをよりいっそう進めていくことが乗り越える力となっていくことが再確認されました。